

高幡山のまつり



五重塔 平安時代初期の様式で建てられた美しい塔で、和様、三手先出組、青銅瓦葺、塔高40m、総高45m。

境内散策

万葉集にうたわれた多摩の横山（多摩丘陵）の一角をとり込み、千古の緑に包まれた高幡不動尊三万余坪の境内は、春の椿・山茱萸に始まり、桜（三〇〇株）・紫陽花（七五〇〇株）・彼岸花（十万株）・もみじ（一二〇〇株）など四季とりどりの花木に恵まれています。

又新選組記念碑・土方歳三像・上杉憲顕の墓・お鼻井戸・芭蕉句碑をはじめ史蹟・文学碑等も多く、裏山不動ヶ丘には山内八十八ヶ所の弘法大師像がまつられておりご参拝に歴史・文学探訪に森林浴に絶好の寺ですのでごゆるりと散策をお楽しみ下さい。

大日堂

高幡山の総本堂で数多の尊像がご安置されています。昭和62年根本改修工事が完了し、鎌倉時代様式の堂に復原されました。鳴り龍天井や江戸時代の優れた彫刻群、新選組の近藤・土方の位牌、後藤純男画伯の豪快な襖絵等を拝観できます。

（尚襖絵は年末から3月中旬まで八福神（江本象岳画伯筆）に変わります）



土方歳三像

新選組副長土方歳三は天保六年市内石田の生れ、明治二年五月十一日箱館戦争で戦死。三十五歳。毎年歳三の命日に近い五月第一日曜に、新選組まつりが開催されます。尚歳三の生家は高幡山の檀頭格の旧家です。



高幡不動尊金剛寺の沿革

真言宗智山派別格本山、高幡山明王院金剛寺は古来関東三不動の一つに挙げられ高幡不動尊として親しまれている。その草創は古文書によれば大宝年間(七〇二)以前とも或いは奈良時代行基菩薩の開基とも伝えられるが、今を去る一、一〇〇余年前、平安時代初期に慈覚大師円仁が、清和天皇の勅願によつて当地を東閻鎮護の靈場と定めて山中に不動堂を建立し、不動明王をご安置したのに始まる。

のち建武二年(一三三五)八月四日夜の大風によつて山中の堂宇が倒壊したので、時の住僧儀海上人が康永元年(一三四二)麓に移し建てたのが現在の不動堂で続く室町時代の仁王門ともども関東稀に見る古文化財である。足利時代は「汗かき不動」と呼ばれて鎌倉公方をはじめ奥院伽藍を一举に焼失した。その後、歴代住持の尽力により徐々に復興に向つたが殊に昭和五十年以降五重塔・大日堂・鐘楼・宝輪閣・奥殿等の工事が続き、更に近年大師堂・聖天堂の再建工事も完了、漸く往時を凌ぐ程の寺觀を呈するようになつた。

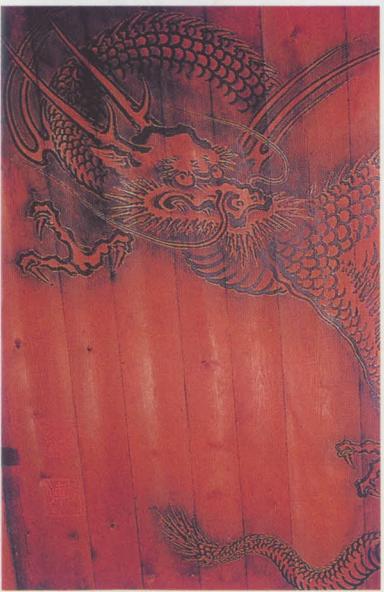
總重量一、〇〇〇キロを超える巨像で、古来日本一と伝えられた重文丈六不動三尊は千年ぶりの修復作業が完了し、現在奥殿にご安置されており、正面から参拝可。(左の写真及び説明文を参照)



せいたか童子像 重文
平安時代 230.4cm

不動明王坐像 重文
平安時代 285.8cm

こんがら童子像 重文
平安時代 193.2cm



縦540cm・横720cm



鳴り龍天井・中村岳蓮筆 江戸時代
大日堂外陣天井に描かれた墨絵の裸龍で龍の下で手を打つと妙音を発し、願い事が叶うと伝えられ鳴り龍(成り龍)と呼ばれています。



仁王門 重文 室町時代
仁王門は当初楼門として建立されましたが途中で変更され、樓上の主要部を覆う様な形で切妻の屋根がかけられていました。昭和34年解体修理にあたり樓門に復原されました。
樓上の扁額「高幡山」は、洛東智積院七世運徹僧正の筆。

丈六不動明王像并両童子像 重文 平安時代

尊容をわめて雄偉、火防不動・汗かき不動と呼ばれ数々の靈験を伝えています。古來日本一の不動三尊と称えられ、関東不動信仰濫觴の靈像と考えられています。

新丈六不動明王像(身代り本尊) 北 宗俊作

当山の重文・不動明王像修理の為、身代りの本尊として造立された巨像で平安後期の様式を忠実に継承しています。

